

虚子記念文学館投句特選句・令和五年二月

稲畑廣太郎 選

汀子忌や十七音にある祈り

兵庫 涌羅由美

紅梅の盛り祈りの深まり来

神奈川 進藤剛至

大空に儚なさ広げ冬桜

香川 静川あさえ

立春の富士山頂の雲が邪魔

東京 荒川ともゑ

雪女郎釦止めてと背中向け

三重 池本準一

風を呼びるり色そよぐ犬ふぐり

兵庫 雲山ひまり

梅の香の風に誘はれ届きをり

兵庫 足立朱麻

春立つや夢の膨らむ予定表

大阪 河辺さち子

春の風梅の香りに導かれ

兵庫 福井彩人

立春のひかりの中の影法師

兵庫 武田奈々
(青少年)

入選句・令和五年一月

そら耳に聞くほととぎす汀子の忌	大阪	吉田良子	紅梅のおてんば早も弾け咲く	兵庫	齊木富子
降り積もる雪の嵩見る鼻眼鏡	大阪	西岡洋子	立春や苞ひとつづつ解く日差	大阪	杉山千恵子
節分や心弾ませ虚子館へ	大阪	多田羅紀子	赤き実も葉も凍らせて小宇宙	兵庫	高野さち
梅ふむむ早も巡りし一周忌	兵庫	森岡喜恵子	蔵の戸を梅の香りへ開きけり	大阪	立入宮子
日差にも力戻りて春隣	石川	辰巳昌彦	強く見せ美しく見せ鶴の舞	奈良	河村久美子
春の風邪うつしうつされ又うつし	兵庫	槌橋眞美	末黒野の匂ひ残して出づるもの	大阪	若林友子
鮮烈や臘梅の黄に師の姿	大阪	徳永由起子	行き交す物腰二月礼者かな	兵庫	小林志乃
臘梅の黄の明るさに入る虚子館	大阪	徳岡美祢子	昼時の熟女の声や明日は春	兵庫	小川孝子
虚子館に汀子師見えず春寒し	香川	原道子	一輪の梅百輪の序章なり	兵庫	塚本武州
白梅や庭師は暫し憩ひをり	兵庫	山本康子	下萌や動き出したる庭暦	大阪	石橋玲子
仁王門一途に咲けり冬桜	香川	藤田敦雄	鳥雲に入る天涯に我ひとり	奈良	豚々舎休庵
節分や百鬼夜行の世にあれど	兵庫	前田容宏	春立つや心に沁みる回顧展	茨城	大倉真知子
偲ぶ歩となりし芦屋の二月かな	大阪	谷本房子	芦屋句座みな梅の句をたづさへて	鳥取	前田千
しめやかに季節入れ替へ春の雨	香川	佐藤美沙子	犬ふぐり日当れる時草に現る	岡山	石井宏幸
春光や門下見守るなめの句碑	香川	渡部全子	春立つやノートに記すひと文字め	兵庫	武田優子
師在さぬ庭春雨のつぐ命	大阪	田邊育子	立ち止まることも必要春立ちぬ	福岡	藏本翔
不在なる邸の水音確と春立ちぬ	香川	三好ようこ	汀子亡き館の庭とて草青む	兵庫	高杉靖子
師の庭の水音確と春立ちぬ	兵庫	玉手のり子	暁の月ある寒の夜勤明け	兵庫	中井陽子
日に温み風に温みや春めきぬ	石川	村上秀吾	末黒野のほひと共に生る息吹	大阪	西尾浩子
踏まずには行けぬ下萌終焉碑	三重	松村咲子	「起きなさいよ」と母春シヨールふわり	大阪	櫻淵桜陽子
寒明の光拾ひて虚子館へ	兵庫	川村ひろみ	ちつとしてをれぬ待春館に待つ	兵庫	奥田好子
草青む白き小花も咲き出して	東京	甲斐瑠璃子	立春や主婦も小さき革命家	徳島	奥村里
臘梅の花びら透いて虚子館へ	富山	畑中あづき	淋しさを胸に秘めつつ春立ちぬ	兵庫	山田翔太
虚子翁の探梅行や杖杖	岡山	小幡恒雄	制服の採寸予約春立ちぬ	香川	葛原由起
能登からの雷鳴激し寒明くる	富山	武田律子	口説かずにをれぬ大雪今日もまた	石川	辰巳葉流
雪を発ち雪なき景にとまどひぬ	鳥取	棕則子	春立つや野山一水より弛ぶ	兵庫	中村恵美
崩れゆく古代の遺跡下萌ゆる	大阪	大橋明子	寒明や芦屋川にも水の音	兵庫	池田雅かず
あれほどの魚は何処へ川涸るる	兵庫	小柴智子	やがて師の句碑建つ館の梅も咲き	大阪	林曜子

甦るあの日あの声梅真白	兵庫	岩水ひとみ	春浅し蕎麦屋女将の下駄の音	兵庫	高市敦之
早春の館句碑の建つ話など	香川	三宅久美	洋館の窓の緑青春の暮	兵庫	太平楽太郎
残雪の野を吹く風に有る未来	兵庫	小杉伸一路	在さずとも紅白梅の開き初む	兵庫	中村澄子
忌心の募るしよしゆんの虚子館	香川	大山孝子	合格を菜の花の束で告げた父	神奈川	齋藤苑子
寒明けて親子で始むウォーキング	兵庫	深尾真理子	日の匂ふ風はさみどり露の臺	奈良	芳林淳子
早春や汀子句集の若き彼	兵庫	岸川佐江	竹取や山は笑うて鉦の音	大阪	平畑奈緒美
早春や光は庭に吾の顔に	兵庫	辻田あづき	虚子館に来て丸顔のお雛はん	大阪	平畑和子
ほろ酔ひの肩をこそばし春雨	兵庫	高橋純子	魚高く川面を跳ねて春近し	兵庫	伊集院秀樹
風音のありて音なく雪降りぬ	京都	山崎貴子	河原鶉川面に嬉々と水飛沫	滋賀	近江堇花
師の在さぬ庭に潜みし余寒かな	香川	真鍋孝子	薄氷や静けき朝の山の池	兵庫	岡本やすし
同じことまた訊く人と春を待つ	兵庫	永沢達明	青空のありて菜の花風に咲く	兵庫	上田光子
長音となる早春の芦屋川	兵庫	藤井啓子	空の青大地にありぬ犬ふぐり	兵庫	入谷千恵子
猫柳二足目となるベビー靴	兵庫	辻 桂湖	針供養縫ひ子で生きて五十年	兵庫	大西美知子
立春や散歩日和と云へずとも	奈良	好川忠延	下萌に我もうかうかしてをれず	兵庫	山口弘子
春光とゐふは喜び醸すもの	兵庫	池田文子	せせらぎの音に目覚めし犬ふぐり	大阪	辻 昌子
名物のうどん売切れ梅見茶屋	大阪	須知香代子	針供養絵を描くごとく色を刺す	兵庫	伊藤秀子
如月のパイプオルガン汀子の忌	愛知	小野 薫	新たなる三代句碑に春日燦	兵庫	金田八江子
染物の藍深まりて春の川	三重	水越晴子	踏まれても色失はず犬ふぐり	兵庫	道中義臣
おおかみの森に摘まる風しまく	京都	杉森大介	一群の鮮やかさありいぬふぐり	兵庫	山岸正子
イヤリング拾ひ上ぐれば霜の声	東京	木村三球	蒼天へ平らあれかし木の実植う	兵庫	西村みどり
紅梅や袴の娘弓を射る	兵庫	月あんぬ	十年を生きん力と木の実植う	兵庫	二瓶美奈子
汀子邸紅梅心做しさみし	新潟	安原 葉	捕らへんと尾を揺らす猫蝌蚪の水	兵庫	福田光博
雨降りて墓苑春の色となり	東京	小森まさひこ	学成らず恋にも破れ卒業す	石川	伊東弥太郎
句碑生まれ虚子館いよよ春まほら	兵庫	山西商平	薄氷びしりと走る蓮の脈	神奈川	小堀公美子
三代句碑成りし芦屋の梅二月	滋賀	福島良枝	堂島のビルの灯映し水温む	兵庫	恵島祥一朗
館を守る三句碑桂の芽の勢ふ	大阪	徳澤彰子	年甲斐もなかりしバレンタインデー	大阪	多田羅初美
忌ごころにこもごも語り享保雛	大阪	徳澤南風子	どの書にも旅情の深き汀子の忌	大阪	奥野千草
二月の館の華やぎ句碑披く	鳥取	棕 誠一朗	春一番S字に進むちんどん屋	兵庫	上岡あきら
トンネルを抜けて湖北の霞濃し	石川	西田さい雪	汀子師の席ぼつかりと館余寒	大阪	山田佳音

句碑披き偲ぶ心に汀子の忌	京都	西村やすし
紅梅の香のほどきゆく日和かな	兵庫	黒田千賀子
鶴唳の出水の夜明け早めをり	大阪	窪田由紀子
館に会ふ笑み汀子忌と言はれても	兵庫	西村正子
街角の雛繁栄伝へをり	大阪	地引民子
ひよつとこのぬうと近づく節分の夜	兵庫	キートスばんじょうし
風にゆるるあてなき一と日猫柳	兵庫	阿曾宏之
ストライド伸ばしボクサー春の浜	和歌山	中島紀生
ドリップの最後の雫春来る	東京	宮村土々
講演集賜はる一会汀子の忌	兵庫	長安悦子
敷石の割れ目割れ目に草萌ゆる	埼玉	土井洋子
春浅し徳利に注ぐ里の酒	神奈川	平野孤舟
スキップの子らに揺らされクロッカス	神奈川	金子三奈乃